

男女共同参画へ一歩いっぽ。〔パ・ザ・パ〕

No. **28**
2017 MARCH

Pas à pas



P2 特集 *Life in Japan*

～静岡に暮らす外国人に聞く 多様な価値観、生き方のヒント～

P7 小学校出前講座を実施しています

P9 平成28年度
女性の活躍応援事業所表彰

P10 女性の活躍応援事業所紹介
株式会社リンク・アンビション

P12 LGBTって何!?











※Pas à pas〔バザバ〕：仏語で「一歩いっぽ」を意味します。

特集内容

Life in Japan

～静岡に暮らす外国人に聞く 多様な価値観、生き方のヒント～

日本は144か国中111位・・・さて、これは何の順位でしょう？
 これは昨年10月に世界経済フォーラムで発表された、「ジェンダーギャップ指数」での順位です。
 この順位が低いほど、男女の格差が大きいことを表しており、日本は、先進国の中で最低水準なのです。
 日本では、すべての分野で男女の格差が大きいということでは決してありません。
 しかし、こうした格差や格差が生じる状況は意外と身近なところにも見られるかもしれません。
 そこで今回は、静岡に住む外国人の方々からお話をお聞きました。
 それぞれの国のジェンダーや働き方、子育てについて、日本と比べて何が見えてくるのでしょうか。
 あなたなりの生き方を考えてみる“きっかけ”にしてみたいはいかがでしょうか。

| | | | |
|--|---|---|---|
|  |  |  |  |
| | P3. フィンランド・ オーストラリア国籍* スリヤ佐野ヨハンナ雪恵さん | | P5. ペルー ポルティヨ テルヤ アンハラさん |
|  |  |  |  |
| | P4. バングラデシュ ニアズ アハメドさん | | P6. フィリピン 土屋マリルウさん |

*スリヤ佐野ヨハンナ雪恵さんは、フィンランド・オーストラリア国籍を有していますが、ここではフィンランドの事例を中心に紹介します。

COLUMN

111位は
低いズラ～
(涙)



ジェンダー・ギャップ指数って何!?

ジェンダー・ギャップ指数とは、男女平等の度合いを指数化したものです。

2016年の調査では、日本のジェンダー・ギャップ指数 (Gender Gap Index) は、測定可能な144か国中111位でした (2015年は145か国中101位)。

日本は、寿命や妊産婦死亡率といった健康分野や教育等、人間開発の分野では実績を上げていますが、政治・経済活動や意思決定に参加する機会においては、諸外国と比べて男女間の格差が大きいと考えられています。

表の数値は、0に近いほど男女の格差が大きく、1に近いほど男女の格差が小さいことを示しています。

ジェンダー・ギャップ指数
(111位/144か国)

2016年

| 順位 | 国名 | GGI値 |
|-----|--------|-------|
| 1 | アイスランド | 0.874 |
| 2 | フィンランド | 0.845 |
| 3 | ノルウェー | 0.842 |
| 4 | スウェーデン | 0.815 |
| 5 | ルワンダ | 0.8 |
| 6 | アイルランド | 0.797 |
| 7 | フィリピン | 0.786 |
| 8 | スロベニア | 0.786 |
| - | - | - |
| 111 | 日本 | 0.66 |

GGIについては国連開発計画(UNDP)「人間開発報告書」より

フィンランドでは、女性が働きやすい環境を、自らが勝ち取ってきた歴史があります。



名前：スリヤ佐野ヨハンナ雪恵 さん
フィンランド・オーストラリア国籍

滋賀県出身。ハワイへの語学留学や、オーストラリア滞在などを経て、現在は清水区の教会で牧師をされているほか、英語とフィンランド語教室の講師をされています。



両親はフィンランドからの宣教師で、宣教活動を行うために来日しました。私は日本で生まれ、育ちました。けれども、滋賀県の日本フィンランド学校に通っていたので、日本に住みながらも、学校や家庭、また言語、文化はフィンランドそのものでした。フィンランドへは、両親の活動報告のための帰国の際、5歳、10歳、15歳の時に一緒に行きました。フィンランドで過ごした期間は、トータルで2年半程度です。その後、16歳でハワイの高校へ留学をし、19歳からは、神学大学での4年間を含め、6年間をオーストラリアで過ごしました。その後、関西に約2年半、東京に15年住み、この静岡には8年前にやって来ました。現在は清水区にある教会で、キリスト教の牧師をしながら、英会話やフィンランド語を教えています。牧師の活動は、仕事というよりもミッションという感覚であり、私の生活そのものです。

(フィンランドの教育について)

フィンランドは、子どもの学力が実質的に世界一であると言われています。それを支える教育制度は、日本とは根本的に異なります。日本では、みんなと同じことをして、足並みを揃える教育や、テストの順位を重視する勉強方法が多いような気がします。フィンランドでは個性を育てる教育がメインであり、学校は子どもの生きがいや天職を探すためのところ。また、フィンランドでは宿題がなく、生徒が自主的に行うことがほとんどです。長期休みの間は、勉強を忘れてひたすら遊びます。学校からは読書以外の勉強はしなくていいと言われるくらいです。教育への国の保障もしっかりしており、授業料や給食費は無料です。妊娠や出産に関してもお金の不安が全くありません。だから、子どもを産むことを悩みません。日本の教育や子育ては金銭的に大きな負担が伴い、また、その子のためというよりも、人様に迷惑をかけないようにという考えが強いと感じました。

(家庭での男女の役割)

もともとはフィンランドも、男性は外で仕事をし、女性は家の中で家事をするという考えでしたが、今は家事や育児に参加する男性が増えています。フィンランドでは女性の参政権を世界でも早くから獲得し、女性議員も大勢います。1960年代くらいから、女性の社会進出が進み、女性が自ら、育休などの女性が働くための環境整備を勝ち取ってきた歴史があります。社会保障が整っているため、働きながらも子育てができ、女性の社会進出がしやすく、出せもしやすい環境があります。このように、女性の立場も強まる一方で、男女双方とも歩み寄ることができず、離婚率が上昇しているなどの問題もあります。とまあ、もともと人口が少ないので、子どもも女性も社会に必要な存在であり、大切にされたのです。

仕事の後は早く帰宅できるので、子どもを早く迎えるに行くこともでき、子どもと過ごす時間が多く取れます。また、夫も仕事から早く帰ってくるので、家事や育児にも率先して参加することができます。

(老後について)

フィンランドのお年寄りも基本的に独立していて、歳をとっても子どもの世話になりません。子どもと同居せず、施設にも入らずに、一人で暮らすことが多いです。

(日本人・静岡の人の印象)

静岡の人は勤勉で真面目な印象です。接客やサービスも温かく、丁寧で親切です。私は、さらに日本人が、人と違うことは素晴らしいということにも気付いてほしいです。国際結婚や子どもの教育でも、それぞれが違うことは素晴らしいと思います。これからの時代、日本も、国籍や文化の多様化に直面し、違う価値観を知ることにより、島国的な考え方からグローバルな考え方へと変えられていくことを期待します。

楽しみながら、 リラックスして仕事に臨んでいます。



名前：ニアズ アハメド さん

Niaz Ahmed

出身：バングラデシュ・ナルシンディ

1994年来日。株式会社シズナル代表取締役、NPO法人富士山から世界 理事長。バングラデシュでの日本語学校を展開するなど、日本とバングラデシュの架け橋として幅広い活躍をされています。



（来日したきっかけ）

1994年、23歳のときに語学留学のためにバングラデシュから静岡にやってきました。当初、30歳頃には母国へ帰るつもりでいましたが、静岡や東京で、語学の勉強や仕事、国際交流活動をする中で、日本の文化やマナーに惹かれ、日本で暮らし続けることを決意しました。

（日本とバングラデシュをつなぐ仕事）

『今までは自分が日本から“してもらおう”ことが多かったのですが、これからは、静岡の地で、日本や静岡のためにできることをしたい』そのような気持ちから、2004年、友人と『シズナル』（静岡の“シズ”と故郷ナルシンディの“ナル”から命名）という会社を設立しました。静岡での飲食店経営や、物品販売、バングラデシュでの日本人学校の運営など、日本とバングラデシュをつなぐ架け橋となるべく、幅広く事業を展開しています。

私はイスラム教徒ですが、日本に滞在中のイスラム教徒が、宗教上、豚肉に代表される食べ物の制約があり、飲食できる場が限られていることから、より多くのイスラム教徒が日本を訪れるためには、ハラル（注）に対する認識を広める必要があると考え、NPO法人『富士山から世界』を立ち上げました。ハラルに対応した飲食店や、静岡産のものを使用したハラルが増え、それを世界に発信することで、静岡により多くの外国人が訪れ、静岡の経済活性化にもつながると期待しています。

（バングラデシュの男女共同参画）

バングラデシュでは、イスラム教の教えもあり、もともと女性はあまり外出しませんし、仕事をするという考えもあまりありませんでした。私の母も外に行きたがりませんでした。年輩の方にはまだそういう考えを持つ人もいますが、近年経済発展に伴い、仕事をする女性が増えています。国も企業も、できる限り女性たちに仕事をしてもらおうと考えています。

（バングラデシュの子育て）

都市部だと子どもの数は少なく、夫婦で協力し合います。一方地方であれば、子どもの数は都市部に比べて少し増えますが、大家族で支え合ったり、お手伝いさんを雇う家庭も多く、家事や子育てへの負担感や心配は少ないと言えます。

また、人口の9割がイスラム教徒ということもあり、お酒は飲まず、仕事が終われば家に帰ります。男性の育児参加は、男性側の気の持ちようによるところが大きいと思います。

（ニアズさん流ワーク・ライフ・バランス）

経営者という立場上、プライベートの時間にも、ビジネスにつながる出会いやヒントがあるので、はっきりと仕事のオンオフの区別はつけていません。しかし、楽しみながら、リラックスして仕事に臨んでいるので、うまくバランスはとれています。

（日本に暮らす外国人として）

日本に来て間もない頃、3か月はホームシックにかりました。母国からの手紙と、日本で出会った学生仲間や、親身に相談に乗ってくれる日本人たちに支えられ、楽しい時間を過ごすうちに、いつしか寂しい気持ちはなくなり、日本が大好きになりました。来日から23年、今では、留学生をはじめ多くの外国人が、私のもとを訪れ、仕事や進学の悩み、日本で生活する上での悩みを相談します。自宅には、バングラデシュからの留学生が下宿しており、時には身の回りの面倒もみえています。

日本に住む外国人だからこそ、日本のマナーや考えを尊重し、日本人と同じ気持ちで、静岡市民として暮らしています。地域の方とのつながりを大切に、挨拶なども心がけています。バングラデシュも日本も、心があたたかい。特に、静岡の人はとても協力的です。だから、静岡の人と気が合うと思います。

（注）ハラル（ハラール）…イスラム教によって許可されたもの。食べ物、衣服など

家に帰ったら、気持ちを切り替えて リフレッシュ！



名前：ポルティヨ テルヤ アンヘラ さん

Portillo Teruya Angela

出身：ペルー・リマ

1991年来日。現在はネットショップ運営を中心に、静岡市国際交流協会での相談員やスペイン語の講師をするなど多彩なご活躍をされています。



（来日したきっかけ）

1991年来日しました。80年代、ペルーではテロが活発で、爆弾がどこにあってもおかしくないくらい治安が悪い状況でした。当時、ペルーではパソコン関係の仕事をし、工場のデータ管理をしていました。そんな時、知り合いから、「日系の人は日本で仕事ができる」と聞きました。祖父母は日本人ということもあり、日本に興味はありました。アメリカやカナダはお金が無くてもアルバイトをして、バスで旅行に行けますが、アジアやヨーロッパはお金を貯めないと行くことができません。そこで、仕事をしながら観光もでき、その間にテロが沈静化するのではあればと思い、日本で働くことを決めました。日本に来て、半年ですっかり気に入って、もうペルーには戻らないと決めました。静岡市には20年前に来ました。静岡市は目の前に海、後ろには山があり、リマに似た地形なので親しみを感じました。

（仕事について）

今の仕事は、ネットショップを運営しながら、静岡市国際交流協会の相談員や、スペイン語の講師をしています。どの仕事も不定期で、土日でも仕事をしていることがあるので、決まった休みはありませんが、仕事もプライベートも充実しています。休みの日は完全にオフです。一日パジャマを着て、ベッドから出ません。

スペイン語の相談員の仕事は大変な面もありますが、家に帰ると気持ちを切り替えて、仕事の話はしません。それは夫も同じです。どの仕事も好きですし、オンとオフを切り替えているのでうまくいっているのだと思います。

（ペルーの家庭の様子について）

リマでは家事のお手伝いさんを雇っている家庭が多いです。お手伝いさんは夫婦二人の給料で雇うことができ、掃除、洗濯から子どもの面倒も全部任せることができます。リマでは中級層でも夫婦で働かないと生活が苦しいです。二人で働いて家に帰って来ると、二人とも疲れています。でも、お手伝いさんのおかげで、「先に帰ってきたのになんで家事やっていないの？」と夫婦間で言い争いにはなりませんし、仕事に集中することができます。

（家事の役割分担）

家族は夫と高校生の息子2人の4人家族ですが、全員一通りの家事ができます。先に家に帰ってきた人から状況を見て考えて、自分で判断するようにしています。そのため、誰が何をやるのかの分担は特にしていません。

私たちが子どもたちに残してあげたい遺産は「生き方」です。一人でも生きていける力を身につけてほしいです。

（子育てについて）

子どもに対して、特に朝は怒らないようにしています。なぜなら、子どもが学校に行っている間に自分が死ぬかもしれない。最後の顔は笑っている顔を覚えていてほしいからです。きっかけは、父が亡くなったことです。ペルーにいる父とはスカイプで話をしていたのですが、父が亡くなる前日に話をした時の顔が残っています。あれから、最後の顔について考えるようになり、笑っているものになりたいと考えるようになりました。朝、子どもを見送る時は「いっぱい遊んでね」「いっぱい食べてね」と言って送り出します。「いっぱい勉強してね」とは言いません。プレッシャーを与えず、ニコニコの顔で送り出してあげたいのです。

フィリピンでは、みんなで助け合って子育てをしています。



名前：土屋マリルウ さん
出身：フィリピン・ビコル地方

1985年に結婚を機に来日。
現在は大学でフィリピン語の講師や、静岡市国際交流協会でのフィリピン語の相談員をされています。



（来日したきっかけ）

1985年に、日本人の夫との結婚を機に来日しました。来日後は東京で、二人で生活を始めました。夫は職業柄、海外に3か月から半年は滞在していました。帰国しても1、2週間でまた海外へ行ってしまうという生活が今でも続いています。来日してから2年間は専業主婦をしていました。日本語もよくわからず、家族がそばにいるわけでもなく、ただ夫の帰りを待つだけの生活が一番辛かったです。その後2年間、浜松で暮らした後、1989年に静岡での生活が始まりました。

（仕事について）

フィリピンでは、高校と大学の常勤講師として仕事をしていました。来日当初、日本語は全くわからず、語学学校、YMCA（注）やボランティアグループのもと日本語を勉強し、大学へも通いました。そして、現在は大学のフィリピン語講師としての仕事を柱に、国際交流協会の通訳や相談員の仕事、英会話講師、翻訳業などと日々忙しく過ごしています。

仕事は常勤ではないので、生活の保障や収入にも波があり、安定した仕事に就きたいと思う反面、自分で仕事を組み立て調整できるこの形態だからこそ、今まで仕事と家事・子育ての両立をはかることができたのだと思います。どの職場でも周囲の人々はとても親切で、いつも助けてくれる環境で感謝しています。

ちなみに、フィリピンにも「男性は外で仕事、女性は家庭」といった考えを持つ人もいますが、男性も女性も同じように働くことができる環境があり、男女問わず出世できる環境にあります。

（日常生活、子育てについて）

日本に来て間もない頃ですが、女性が結婚、出産を機に専業主婦になるということを聞き、とても驚きました。フィリピンでは、女性は結婚、出産をしても仕事があれば仕事を続けるのが普通であり、仕事を辞めて専業主婦になるケースは少ないです。メイドやベビーシッターの制度が充実していますし、家族や親戚同士が助け合って子育てをしていくのが当たり前の環境なので、仕事を辞める選択を強いられません。そのように、助け合って子育てをするので、母親は空いた時間に友達と遊んだり、自分の好きなことをしたりしてリフレッシュすることができます。日本での、子育てを機に辞めざるを得ない社会の仕組みや、制度に問題を感じました。

しかし、そうして女性が専業主婦になり、子どものそばで子どもを見てあげられたからこそ、日本の教育水準が高いことに結び付いているようにも感じています。

私の夫は海外赴任でほとんど留守だったので、私のご近所付き合いから、子育てに関することまで全て一人でやってきました。PTAの役員も、野球をやっていた子どものチームの送迎役も、他の保護者と同じように拒まずにやってきました。

（日本人・静岡の人の印象）

漢字が難しく読み書きができずに困った時に、ご近所さんやお友達、学校の先生、ボランティアの方々に助けられたことを本当に感謝しています。

日本人の、誠実、謙虚、勤勉、質の高い製品を作るための努力の姿勢、そして喧嘩を嫌い、支え合って平和を好むところが大好きです。

（注）YMCA…Young Men's Christian Associationの略。
キリスト教に基づく青年団体

小学校出前講座を実施しています。

静岡市では、性別にとらわれない職業選択・生き方を題材に、ジェンダーバイアス（社会的・文化的な性に関する偏見・差別）を越えて、お互いの違いを認め、自分の才能を生かす力を身につけることを目的に、小学生を対象に「自分らしく生きよう」と題した出前講座を実施しています（※平成28年度募集は終了しました）。

講師は、浜松市をはじめ、県内各地の小中学校や高校で、男女共同参画についての学習支援を行っている団体「ファシリテーターズ静岡」の皆さんです。平成28年度は、静岡市内の小学校4校で実施し、約300人の児童に向けて講座を実施しました。

男性も女性もともに活躍するためには、性別にとられず、主体的で多様な生き方ができるように、一人ひとりが男女共同参画の意識を持つことが重要です。

静岡市では、これからも男女ともにいきいきと輝くまちを目指していきます。

〈児童の感想〉

- ・今までの考え方を考え直して、今の夢とか、社会に立ち向かっていきたいと思うことができました。
- ・固定的役割分担意識がはたらいているため、男性向け、女性向けの職業の仕分けが自然に身につけていることがわかりました。
- ・固定的役割分担意識だけで行動しないで、性別だけにとらわれないで生活していきたいと思います。

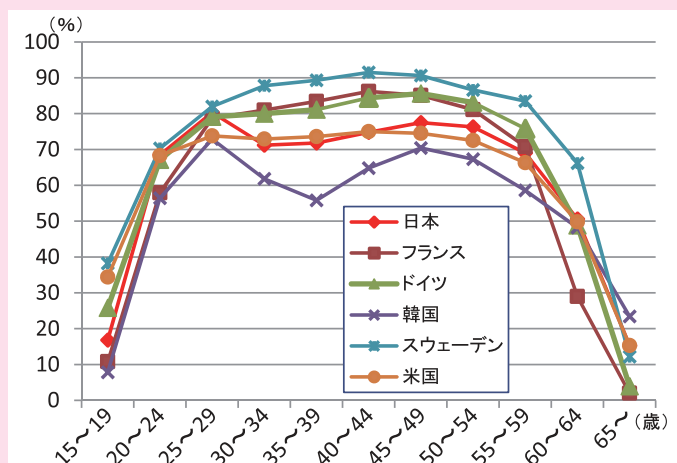


出前講座の様子
(平成29年1月30日・静岡市立新通小学校)

C O L U M N 2



M字カーブって何!?



主要国における女性の年齢階級別労働力率
(平成28年度版男女共同参画白書より)

左のグラフは、各国の女性の年齢階級別労働力率の状況です。日本では出産や育児期にあたる30歳代に落ち込み、子育てが一段落する40歳代に再び上昇が見られる傾向から、いわゆる「M字カーブ」と言われる現象が見られます。このような落ち込みは、欧米では1970年代までは見られた現象ですが、昨今ではほとんど見られなくなり、台形型になっています。

スウェーデンで導入されている両性が取得できる休業制度や、フランスの「育児親休暇」「父親休暇」のように、働く男女が子育てを両立しやすい就業制度に取り組む国で、女性労働力率が高くなる傾向があります。

静岡市女性会館（アイセル21）図書コーナー 図書紹介



ジェンダーの世界地図

菅原 由美子・鈴木 有子 著 (大月書店)

世界の実情をリアルに伝えるデータマップシリーズです。日本で生活しているだけでは見えてこない、世界の多様性と、共生の価値観を伝える1冊です。



女ひとり、イスラム旅

常見 藤代 著 (朝日新聞出版)

出会ってすぐに家へ招かれ、外食すれば知らぬ間に誰かが代わりにお勘定、町を案内してくれたちよいつ青年はお年寄りに親切など、「怖い」「危険」とイメージされがちな国の人たちは、世界一旅人にあっただかい。多くの出会いから日本が知らなかったイスラムの意外な姿が見えてくる1冊です。



パリママの24時間

中島 さおり 著 (集英社)

女性が働くことが当たり前で、働く女性が子どもを持つことも、とても自然なフランス。「パリの女は産んでいる」の著者が15人の働く「パリママ」のライフスタイルを紹介しています。ワーク・ライフ・バランスのヒントが満載です。

図書コーナーの利用について

利用時間 午前9時～午後7時
休室日 毎月第2・4月曜日、図書整理日
貸出 図書・雑誌あわせて5点、
CD・カセットあわせて2点(貸出期間 2週間)
静岡市葵区東草深町3-18 TEL: 054-248-7330
HP: <http://aicel21.jp/>
図書コーナーだよりも毎月発行しています。ぜひご覧ください。



DV根絶を願い、パープルライトアップを実施しました。



駿府城公園坤櫓
(ひつじさるやぐら)



静岡市役所本館あおい塔



Break the Chain
(11月13日開催 市民活動プレビュー2016)

毎年11月12日から11月25日までの2週間は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。この期間中、東京タワーをはじめ、全国の主要施設では、DV(配偶者等からの暴力)根絶のシンボルであるパープルリボンにちなんでパープルライトアップが実施されています。

静岡市ではこの期間中、駿府城公園坤櫓(ひつじさるやぐら)と、市役所本館あおい塔のライトアップを実施しました。このほかに、市役所静岡庁舎1階フロアではDV防止啓発のパネル展示を実施したほか、静岡市女性会館が中心になり、市内NPO団体などと一緒に、世界的な女性への暴力防止キャンペーンのテーマダンスである「Break the Chain」を市民活動プレビュー2016のステージ上で披露し、女性への暴力根絶を訴えました。

平成28年度 女性の活躍応援事業所表彰

平成28年11月21日、「平成28年度 静岡市女性の活躍応援事業所」表彰式が行われ、田辺市長から受賞事業所5社の代表者に対し表彰盾と記念品が贈られました。

静岡市では、平成21年度からワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）に関する取組を積極的に実施している事業所を表彰する「ワーク・ライフ・バランス推進事業所表彰」を実施してきました。

平成26年度からは「女性の活躍応援事業所表彰」と名前を変え、ワーク・ライフ・バランスの実現に資するため女性の活躍応援に積極的に取り組んでいる事業所を表彰しています。市では、他の事業所の取組の参考となるよう、受賞された事業所の取組を、モデルケースとして積極的に紹介して、ワーク・ライフ・バランスの一層の推進に取り組んでいます。



大賞（2社）

株式会社リンク・アンビション

女性のみならず男性も在宅勤務を選択可能。
（P 10-11で、株式会社リンク・アンビションの取組について更に詳しくご紹介します。）

株式会社ハウジーホームズ

男女不問の能力評価で女性管理職の比率30%。
女性の視点をいかした商品開発や、妊娠中・子育て中社員の復帰支援など、働きやすい職場環境づくりを。

特別賞（2社）

株式会社ひらおか

「3つの正社員制度」を組み合わせライフステージに応じた働き方の選択が可能に。

弁護士法人ライトハウス法律事務所

ワークシェアリングにより、有給休暇取得率も向上し、90%以上に。

奨励賞（1社）

株式会社竹酔

「お母さん」視点で考案した商品が人気メニューに。

※商業労政課のホームページもぜひご覧ください。

静岡市 商業労政課

※特集サイト「しずおかいきいきワークスタイル通信」を開設しました。そちらもどうぞご覧ください。

<http://shizumatch.jp/shizuoka-ws/>

「静岡県でイキイキと働ける環境」を 自社から実現していく。

— 株式会社リンク・アンビション —

今回は、平成28年度静岡県女性の活躍応援事業所表彰において、大賞を受賞された「株式会社リンク・アンビション」代表取締役社長 原口翼 様にお話を伺いました。



リンク・アンビションとは？

当社は、静岡県に特化した転職支援サービスを事業とする人材紹介会社です。

転職サイト<リージョナルキャリア静岡>

(<http://rs-shizuoka.net/>)の運営をはじめ、静岡県内での転職希望者に対しては、無料で転職相談や、転職活動におけるトータルサポートを行い、静岡県内の企業に対しては経営に影響を与える優秀な人材の紹介を行っています。

現在、静岡県内に本社を置く企業の求人保有数No.1を誇る、静岡県での転職支援において高い実績をもつ転職エージェントです。



育児中の社員に在宅勤務を導入

2012年に、幼い子どもがいる女性社員1名を採用しました。三島市在住で通勤に1時間以上かかることもあり、「在宅勤務」を導入することになりました。打合せや社内業務など、必要に応じて週1回ほど静岡のオフィスへ出社しますが、基本は自宅で仕事をしています。

通常の営業時間9:30~18:00に対して、8:00~17:00に勤務。お子さまの状況に応じ、時間が前後することもあり、また業務の状況によっては上記時間外に行くなど、フレキシブルな勤務をしています。

節約できた通勤時間は、業務やお子さまとの時間に活用することができ、仕事と子育ての両立を実現しています。また、浜松市在住で同じく子育て中で在宅勤務をしているパート社員もあり、従業員女性4名のうち、2名が在宅勤務を選択しています。

「Skype」で各拠点をつなげて会議が可能

拠点は静岡、浜松、名古屋にあり、毎朝9:30より、各拠点と在宅勤務社員を「Skype（スカイプ。インターネット電話サービスでビデオ通話が可能）」でつなげ、朝礼を行います。最近では、プロジェクトでSkypeをつなげたままにしているので、いつでも誰が事務所にいて、どんな会話がなされているのかがわかり、Skype越しに別の拠点の社員と会話することも可能です。そのため、拠点間は遠くても、いつも身近に感じ、一体感があります。

また、Webスケジュール管理ツールの「Googleカレンダー」も活用し、社員全員のスケジュールも共有しています。随時更新されるので、勤怠管理はもちろん、当日のスケジュールや今後の予定に至るまで、全社員の状況がリアルタイムで把握できるようになっており、スムーズなやりとりが可能になっています。

対象社員以外も、必要に応じて在宅勤務可

社員全員にノートパソコン・携帯電話を支給。また、社内用SNSも構築されており、仕事の最新情報が共有できるようになっています。SkypeやSNSの導入などインターネット環境を整備したことで、必要に応じて社外からも仕事が可能になり、次のような事例が、実際にありました。

◆県外出身の社員が、帰省先でSkypeをつなげて仕事のやりとりをする

◆体調不良で、出社するのは厳しいが、自宅で仕事が少しできる程度の場合、在宅で作業

◆夫婦共働きで、どちらかがお子さんの対応をしなければならない時に在宅で作業する など

仕事面は、時間ではなく成果を重視しており、「自分の状況に対応してくれている」という会社への感謝や信頼と共に、「仕事を任されている」という責任感も生まれています。



「社員一人ひとりのできることを広げたい」

人材紹介サービスを提供している事業所なので、「GCDFキャリアカウンセラー」や「キャリアコンサルティング技能士」などの国家資格取得を推進しています。東京での研修が必要な資格のため、受講費・受験費、交通費など全額を、会社負担。事務未経験だった社員には、パソコン教室の受講費用を負担したケースもありました。社員の「できることを広げたい」という思いを、会社全体でサポートする方針で、在宅勤務の導入、資格・技能習得に関わる経費を会社

で負担するなど、仕事の可能性を広げる取組を実施しています。

能力を発揮しやすい職場づくり

社長とランチミーティングを行い、仕事や私生活の悩みを相談できる機会を設けています。仕事の合間では、じっくり話すという雰囲気にはなりません。ランチをしながら話す方が気持ちもリラックスし、思ったことを話せることが多いからです。開放的な環境が積極的な意見交換の場となり、いいアイデアが生まれます。

また、自分の企画などを発信しやすい雰囲気になっています。全社ミーティングで提案できたり、発案した時点ですぐに社内へリリースできたりと、業務改善に向け効率的に動けるよう常に追求しています。提案も柔軟に受け入れる体制があり、職種を越えて、新しい業務にチャレンジできる風土です。このことから「一人ひとりのできることを広げたい」という方針がよく伝わってきます。

ほかにも、3か月ごとに表彰制度を設け、目標達成等の営業に関わる社員はもちろん、サポートを行った社員など営業以外の社員の功績も讃えることで、モチベーションアップに繋がっています。

“暮らしたいところで、思い切り働く”をテーマに転職支援を行っている会社として、まずは自社から、「思い切り働く」「仕事を楽しむ」ことを実践している会社です。

株式会社リンク・アンビション

■事業内容：

- ・静岡県に特化した転職支援サービス
- ・U/Iターンを転職を中心としたヘッドハンティングサービス
- ・転職サイト「リージョナルキャリア静岡」運営 (<http://rs-shizuoka.net/>)

■所在地 <本社>

静岡県静岡市葵区紺屋町11-1浮月ビル4F

■電話番号：054-221-5500

■従業員数：13名（男性9人、女性4人）

LGBTって何!?

LGBTとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとったことばですが、一般的にはこれらに限定しない多様な性的指向（性的魅力を感じる性別）と性自認（自分の性別に対するイメージ）のあり方を示すために用いられています。

L

レズビアン
(Lesbian)

同性に対し恋愛・
性愛を感じる女性

G

ゲイ
(Gay)

同性に対し恋愛・
性愛を感じる男性

B

バイセクシュアル
(Bisexual)

恋愛・性愛の対象
が男女両方に向か
う両性愛者

T

トランスジェンダー
(Transgender)

からだの性（生まれ
たときの性）と
こころの性（自分
が自覚している
性）が一致しない
人



国内のLGBTの割合は、民間の調査結果では全人口の約8%と
言われているズラ～☆

性的少数者の方やそのご家族の方々からのご相談をお受けしています

～多様性を認め合い、誰もが自分らしく暮らせるために～

一昨年、東京都渋谷区で同性パートナーシップ制度に関する全国初の条例が制定されました。こうした動きは、まだ全国的な流れになっているとはいえませんが、性的マイノリティも含め、多様性を受け入れる社会に向かって確実に動き始めているといえそうです。

性的マイノリティといわれる人たちが生きづらさを感じたり、悩みを一人で抱え込んだりせず暮らせるように、市では「共生都市」を目指して幅広く皆さんのご意見を伺いながら取組を進めていきます。

●性的マイノリティ支援団体

GIDしずおか

GID（性同一性障害）を抱える人たちが地域社会で普通に暮らしていけるよう、当事者やその家族、理解者が参加して活動しています。原則として下記日程で定例会が開催されますのでご参加ください。

日程：偶数月の第4土曜日及び奇数月の第4水曜日、
19時から

会場：アイセル21（葵区東草深町）

<http://gidszk.org/>

LGBTしずおか研究会

性的マイノリティ当事者にとって生きづらい社会を作っているのは私たち一人ひとりとの立場から、性的マイノリティについての理解を深めようと定期的な交流会や情報交換、勉強会などを行っている団体です。ホームページ上のお問い合わせフォームをご利用ください。

<http://www.lgbt-shizuoka.com/>

●性的マイノリティ、DVなどに関する電話相談

よりそいホットライン

一般社団法人 社会的包摂サポートセンターが24時間無料電話相談を提供しています。外国語での対応もしています。

下記フリーダイヤル（携帯電話、公衆電話からもつながります。）へ電話をかけ、音声ガイダンスが流れたら、相談したいことを選んで、番号をプッシュしてください。

- 1：暮らしの中で困っていること、気持ちや悩みを聞いてほしい方
- 2：外国語による相談（英語、中国語、韓国・朝鮮語、タガログ語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、ネパール語）
- 3：性暴力、ドメスティックバイオレンスなどの女性の相談
- 4：性別や同性愛などに関わる相談
- 5：死にたいほどのつらい気持ちを聞いてほしい
- 8：被災者の方で困っている方

☎：0120-279-338

パザパ28号へのご意見・ご感想をお寄せください。

〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1 静岡市市民局男女参画・多文化共生課
TEL：054-221-1349 FAX：054-221-1782 Eメール：sankaku@city.shizuoka.lg.jp



再生紙を使用しています。大豆油インクを使用しています。

